

2008年秋タカ渡り調査を振り返って

池上武比古

矢倉岳の東側で沸き立った鷹柱は、やがてほどけ、サシバは次々と愛鷹山に向かって樹海の上を悠然と滑空してゆく。その勇姿を見て、誰しも感慨を持つでしょう、私はいつも書くことですが、その姿を思い浮かべるとアルピノーニのアダージョの旋律を思い出します。

タカの渡りを見たいなら、遠くでは伊良子岬、白樺峠、近くでは矢倉岳に行けばいい。しかし、そこは先人が開発した場所、手っとり早いけれど観光名所を訪れるようなもので、できることなら自分たちのフィールドでその姿を見たい。

そういう思いで始めたタカ調査ですが、2年目で何とかその緒に着いたようです。私なりにこの秋の調査の問題点を整理して、皆さんの意見、批判を募りたいと思います。

大山から権現山の山稜、上空はタカの大きな渡りルートだった。

まずは権現山から始めようと調査を始めたのは、秦野に住む浅川久子さんが「弘法山と権現山の間ですごい鷹柱ができたことがある」と、渋沢丘陵の観察会リーダーの船木瞳子さんが「何度も渋沢市街上空に鷹柱を見た」という目撃談を寄せてくださったからである。

半信半疑ではあったが、この秋の9月26日の86羽、10月2日の70羽（重複あり）の目撃で、この近辺がルートであることは実証された。

権現山の南をタカ飛ぶことはほとんどないようだ。さらに南の湘南平のあたりは逗子や鎌倉方面からの渡りのメインルートになっているかと思われるが、それを見るのは無理。しかし、この大山 権現山線は、箱根 万葉公園線の前の大きなゲートになっていることは確実なように思える。

飛行ルートは高かった

昨年は10月4日、神奈川県内での観察ポイント、武山、峯山、万葉公園でサシバ・デーに沸き立ったとき、われわれの菜の花台観察では記録はゼロで、惨めな思いをした。ところが、今年は何とかカウントできたのは、高度の飛行集団を見つけたからだった。つまり、去年は見えても見えなかったのだが、それにしても高く遠く飛ぶ集団を見つけるのは難しい。

今年2回のサシバデーで、何とか集団を確認できたのも浅川さんの「飛んでるわよ」という連絡があったことだった。というのは、われわれはそれまでの経験で、権現山では通称フォークからNTT中継塔の浅間山山稜越えにばかり注目していて、その山稜のかなり上とか、われわれ自身の真上にまで気が回っていなかったのである。菜の花台も同様で、言われてみれば、大山のはるか上を飛んでいる集団がいた。

山稜越えと、高度飛行組のどちらも見るには、今の権現山・東屋の横の観察では限界があるかもしれ

ない。山稜の向こうでソアリングしているのを見つけて、それが滑空すると、展望台周辺の樹木に邪魔されて、行方を見失ってしまう。その面では、権現山直下の駐車場横は大きく見通しがついていいかもしれないし、小蓑毛・変電所前はさらに展望が開けていて、山稜越えも高度飛行もチェックできそうな気がするので、今後検討したい。

八王子南下組は少数、大半は大都会高度通過組ではないか

調査を始めた時のコース予想は、八王子方面からの南下組が丹沢の東麓、南麓沿いに回って来る、というものだった。それだからこそ、権現山、菜の花台の観察のターゲットは、大山から権現までの山稜であり、そこで上昇気流に乗って来るのを待ち構えていた。その想定は部分的に合っていたのだが、われわれの念頭にはなかった高度通過集団の規模は、それら山稜越え集団をはるかに凌駕していた。

実際に見て、聞いて考えると、雨や曇りの毎日が続いたあとの晴れ、朝から気温が上昇したときの通過集団は、われわれから見える山稜あたりで上昇気流に乗ったのではなく、はるか遠くで登りきって滑空し、秦野付近でできればもう一度一仕事するか、という風情にも見えた。(東京など大都市を横断したサシバ群が秦野あたりを横断したのではないか、という推察は、ふれあいHPのフォーラムに入れました)

秦野でのサシバデーは、城山湖とはリンクしていなかった

秦野でのサシバデーの出現サシバを見ると、大半は高度飛行組だが、もちろん山稜越えと見られる飛行組もいる。森要さんの名古木、変電所前での観察で目撃された個体や、伊勢原・浄水場入り口の七沢観察で目撃された多くの個体もそうだ。

それまでに飛行してきて、一晩その山麓で休憩していたのか、それともその日に山稜伝いに来たのか、それは分からない。その行動パターンを今後調べてゆくことは、七沢での調査の大きな目的になるかと思うが、ただ、秦野、菜の花で多くのサシバ通過を認めながら、七沢では分からなかったことは、どう理解すればいいのか。単純に見逃したのか、それとも、高度が高すぎて見えなかったのか。どうも、後者のような気がするが。

いずれにしても、城山湖を始めとする八王子各地のサシバがほとんど西へ向かったことや、秦野に比べて確認個体数が少ないことから見て、秦野でのサシバ集団はどうも厚木の方には来ていなかったようだ。

同定力のアップを！ いい知恵を貸して手ください。

タカ観察を始めて、いろんな喜び、驚きを経験した。神奈川でこんなにいたの？と言いたくなるような多くのハチクマを目撃したこともそうだし、定番のサシバ、ハチクマ、ノスリ、オオタカのほか、ハヤブサ、チゴハヤブサ、ハイタカ、ツミ、クマタカなど多くの種類のタカを見て、まだまだ自然が残っていることを実感した。

ただ、多様なタカに遭遇できることは、同時にタカの同定力が問われることでもあったが、まだまだ駄目な私は「何やあれ？」ばかりであった。2キロはあるだろうか、遠くの点を見つめながら、まずはカラスとの区別。これは、カラスのひらひら飛びでなんとかクリヤー、その次はトビ。バチを見られるならいいが、水平飛行に入られたりすると、ノスリではないのか、それともサシバなのかと、だんだん支離滅裂になってくるのである。

七沢で見えていても、前日の私の観察ではゼロなのに、翌日の吉邨隆資さんの観察ではすさまじいカウントをしていたことで、その差は如実に出ている。よって、吉邨さんには脱帽して、遠くの点やシルエットでどう見分けるかを、これまでの知恵を集大成して披瀝して下さるようお願いしている。

市販のタカ図鑑は、虹彩がどうしたとか、横斑がどうしたとか、いろいろ書いてあるが、そこまで見えたなら誰にだって同定できるというもので、白樺峠のように近くにみえるのならともかく、双眼鏡ではだめ、スコープでやっと見えたというレベルで苦闘しているわれわれにはたいして役にたたない。

タカというのはなかなか見かけることはないし、探鳥会で見ても一瞬の間に通り過ぎてゆくので、その特徴を把握できないままに終わることが多く、たとえ何とか同定にたどり着いても、この歳ゆえにすぐ忘れてしまう、ということを繰り返しているの、何とかしなければいけません。